

かごしま 祭時記

子ども会に働きかけるなど
若い人の参加を促しています

おがわ まさとし
公民館長 小川 正敏 さん(65)

ハマテゴは戦後しばらく中断しており、私の子どもの頃は行われていませんでしたが、昭和47年頃、戦前にハマテゴを体験した大人たちが中心となって再開しました。地域の行事になかなか若い人が参加してもらえないのが悩みですが、ハマテゴについては伝統行事を継承するという意味でも絶やしてはならないと考えています。今後も子ども会に参加を働きかけるなど、若い人の参加を促す努力を続けていきたいです。



↓ 竹製の弓矢は地区の大人たちの手作り

ハマテゴ

枕崎市 / 小江平地区



一年間の無病息災を願う

子どもたちが主役の伝統行事

正月の伝統行事「ハマテゴ」は、「破魔太鼓」「破魔稚児」などと表記され、枕崎市の中でも小江平地区だけに伝わる行事です。悪魔を払い、子どもの一年間の無病息災を願うもので、明治以前から行われているそうです。

ハマテゴは、1月2日の午前9時から、小江平公民館前広場で行われます。子どもたちはひと昔前の子どもと同様に緋あまの着物を身にまとい、大人たちが作った竹製の弓矢を手にして、転がるダイダイを目がけて矢を放ちます。ダイダイを使うのは子孫や家が「代々」栄えるようにとの願いから。射止めた子どもは、ダイダイが刺さったままの矢を頭上高く持ち上げながら「テゴテゴ」と勝ちどきを上げ、くるくると回ります。最後に2人1組になり、互いの左手を握ったまま、右手に持った弓で相手の尻を叩く、悪魔ばらいの所作をします。「以前は小中学生の男子が中心でしたが、子どもの数が少なくなった今では女子や大人も参加しています」と語るのは小江平地区の桜

鹿兒島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな祭りが各地に残っています。今回はそんな祭りの中から枕崎市の小江平地区に伝わる「ハマテゴ」をご紹介します。

木町公民館長の小川正敏さんです。

元公民館副館長の吉留一光さん(90)と元公民館長の永江勉さん(83)が子どもの頃は、自分たちで山へ竹を取りに行き、弓矢を自作していたそう。「鍬は鍛冶屋さんに買いに行っていたんですよ。何日も前から矢を射る練習をして、当日を本当に楽しみにしていました」とお二人は語ります。

戦後しばらく中断していましたが、昭和47年頃に再開されたハマテゴ。子どもが主役の行事ですが、そこには地域の大人たちの支えと子どもを思う気持ちが息づいています。



枕崎市

枕崎市は昭和24年9月に発足した総人口23,692人(平成24年11月1日現在)のまちです。薩摩半島の南端に位置し、南は広大な東シナ海に面しています。写真は火之神公園からの眺め。坊野間県立自然公園の表玄関で、沖に高さ42メートルの立神岩がそびえ立つ様は雄大です。周辺にはプールやキャンプ場もあり、特に夏場は利用客でにぎわっています。